やまんなか便り

発行元：南山城村役場　産業観光課
発行日：令和7年9月1日

南山城村移住交流スペース やまんなか
開館：水金土 10～16時
☎ 0743-94-0666
✉ murapura163@gmail.com

本をよむよむかたる会

本好きさんの集まりです♪テーマ「恋愛」から連想できる本のご紹介あればぜひ！

【日時】9/3(水)13～16時
【参加】無料(出入自由)

笛を吹こう会

9/23 の島ヶ原のお祭り出演に向けて、練習をします！ひやかし大歓迎★

【日時】9/10(水)10～12時
【参加】無料(出入自由)

やまんなかランチ会

毎月恒例のランチ会です！一緒にご飯を食べましょう(^^♪どなたでもご参加頂けます！お気軽にご連絡ください！

【日時】9/17(水)12時半～
【参加】700円　未就学児無料
【申込】要予約(9/15〆切)

ZINE(ジン)の会

自分の好きなこと、考えていることなどを自由につづり発信する手作りの紙冊子「ZINE」を作っています！原稿サイズはA5
持込大歓迎です！！

【日時】9/24(水)14時～
【参加】無料(出入自由)

インスタ※勉強会

今回は今までの復習や質問タイムです！気軽にのぞきに来てくださいね！

【日時】9/5(金)13～15時
【参加】無料 ※インスタグラムのこと

ちくちく手しごとの会

自分の好きな手仕事を持参して、お喋りしながら作業しています(*^▽^*)

【日時】9/12(金)14時～
【参加】無料(出入自由)

種の会

秋冬にむけて準備をはじめる頃ですね！種や苗があれば持ち寄りましょう～！

【日時】9/17(水)14～15時半
【参加】無料(出入自由)

むらカフェ

皆でわいわい歌ったり、脳トレや簡単な体操をします！お茶タイムも含め1時間ほどなので、お気軽にご参加ください(^^♪地域包括支援センターと社協の共催イベントです。詳しくはれんけいチラシ「むらカフェレター」をご覧くださいね！

【日時】9/26(金)13時半～
【参加】200円(お茶菓子代)
【要予約】保健福祉センターまで

手作り素材の交換・譲渡会

手作り・ハンドメイドに使えるもの、お家に眠っていませんか？？そんな素材を持ち寄ってお譲りする会です！てぶらでもOK(^^)/新しいことを始めたい方、手作り大好きな方ぜひ！(以前集まった素材：ハギレ、着物、本、毛糸、ビーズなど)

【日時】9/12(金)14～16時
9/13(土)10～16時
【参加】無料(出入自由)
※寄付してくださる素材は当日以外でもお預かりします。

目指せ出荷者！「畑の会」で農的な交流☆

移住交流推進員　　野﨑弘之

それにしても暑いです。9 月に入っても、この暑さはしばらく続きそうですね。さて今回は、8/17(日)に行われた「畑の会」のレポートです。「畑の会」とは、村内の生産者さんが減少している傾向を憂いて、若い移住者をはじめ、今まで農的暮らしをやった事がない人に「生産する」という事を体験してもらい、例え少量であってもいいから「出荷する」事を目的に実践的に学んでもらうという主旨で発足した会です。発起人である坂内謙太郎さんが月イチで参加者に指導をする「スクール形式」になっていて、座学だけでなく、実際に童仙房地区の畑で作業する事もあり、その行程の意義や意味までを細かに伝えています。今年で 2 年目になるのですが、昨年は 6 名の参加者で、今年は 7 名に増えました。村内だけでなく、奈良市街地・月ケ瀬地区・島ケ原地区などからも参加して下さり、ここ「やまんなか」では相変わらず地域を越えた交流が生まれています。そもそもこの会が生まれるキッカケになった時の坂内さんとの会話をよく思い出すのですが、「農業をやりたいっていう移住希望者はいないの？」と尋ねられ、当時の僕は「茶業以外で農業をやりたいっていう移住希望者は南山城村を選ばない」と答えました。実際に数件、過去に問い合わせがあったのです。何も知らずに広大な農地を求めてきた方々が、南山城村の地理的条件を理解するや否や、他の自治体に流れて行ったのを憶えています。それだけ、南山城村での農業が厳しいと判断されたのだと捉えています。それならば、小さく農的暮らしを始める人を増やすしかないのでは？という話になり、坂内さんの脳内で構想が膨らんできたようなのです。確かに 7～8 年前の直売所では、もっとたくさんの野菜が並んでいたように思います。ベテランの生産者さんが引退し、じゃあそれと同レベルの生産ができるような若い移住者が突如現れるなんて事は、99%あり得ないでしょうね。だからこそ、「農業ってやった事ないけど、ちょっと自家消費用に作ってみるか」という気持ちでスタートし、年々できる事が増えていって、気付いたら生産量も増えていて、出荷できる量も増えていって・・・という流れであれば、比較的ハードルが低くて取りかかりやすいのは間違いないと思います。気候が年々厳しくなり、農業は今まで以上に「命に関わる仕事」になってきているように感じます。無理なく、「できる事からやってみる」というスタンスで、お互いが助け合い、そして補い合いながら取り組みを進めていく事が何より望ましいのではないでしょうか。